■草壁皇子　　天武天皇の皇子。皇太子に立てられるも，母が持統天皇として即位，まもなく夭折した。
くさかべのみこ

・・・・・・ 662＝　　_百済救援のため大和政権中枢が筑紫に赴いた時，郷の大津で，大海人皇子(のちの天武天皇)の子に生まれる。母は天智天皇の女鶴野讃良皇女(のちの持統天皇)。
白村江の戦・ 663＝ 1歳：

天智天皇没・ 671＝ 9歳：
壬申の乱・・ 672＝10歳：父母とともに吉野を脱出，東国に赴いた。

天智の女の阿陪皇女(のちの元明天皇)を娶り，

・・・・・・ 679＝17歳：*吉野宮での誓盟においては，天智・天武諸皇子中の筆頭格で宣誓を行なった。父天皇・母皇后と並んで，新羅使から朝貢品とは別に献物を受け，優位を示す。
・・・・・・ 680＝18歳：氷高皇女(のちの元正天皇)誕生。再び朝貢品とは別に献物を受ける。僧恵妙の病を問う使に立った。
・・・・・・ 681＝19歳：_皇太子に立てられ万機を摂したとあるが，天皇の居所とは明らかに区別される嶋宮を営み，
・・・・・・ 682＝20歳：勅あって壬申の乱の功臣膳臣摩漏の病を高市皇子とともに見舞った。
・・・・・・ 683＝21歳：可瑠皇子(のちの文武天皇)誕生。大津皇子の聴政が開始され，
・・・・・・ 685＝23歳：吉備内親王ももうける。諸皇子中最高位とはいえ，浄広壱という冠位を授けられていることなどから考えて，これを_律令制下の皇太子と等置することはできないという見解もある。
天武天皇没・ 686＝24歳：なお，父天皇・母皇后と並んで，新羅使から朝貢品とは別に献物を受け，優位にあった。*天武が病に倒れると，母とともに天皇大権を委任され，大津・高市両皇子とともに食封4百戸を加増される。天皇の死後，直ちに即位せず，結局，母皇后が即位し，
・・・・・・ 687＝25歳：_公卿・百寮人らによる天武の殯宮での慟実儀礼の先頭に立ち，また，同年の大内陵造営も主宰したが，
浄御原令・・ 689＝27歳：*病を得て，即位することなく，没した。
その直前，佩侍していた黒作懸佩刀を藤原不比等に授けた。この刀は不比等を介して皇子の直系，可瑠・首皇子(のちの聖武天皇)に相伝された。「万葉集」に「日並知皇子尊，石川郎女に贈り賜ふ御歌1首」，柿本朝臣人麻呂の皇子殯宮での挽歌や嶋宮舎人らが皇子の死を悲しんで作った歌が収められている。

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，